

## 令和6年度十日町市総合教育会議 議事録

1 日 時 令和6年10月25日(金) 午後1時30分～午後2時30分

2 会 場 十日町市役所 防災庁舎 大会議室

3 出席者 市長 関口 芳史  
教育長 渡辺 正範  
教育委員 浅田 公子  
教育委員 廣田 公男  
教育委員 渡邊 奈々子  
教育委員 川崎 正男

### 説明担当者

教育文化部長	滝沢 直子
教育文化部副参事	鈴木 政広
教育総務課長	玉村 浩之
教育総務課長補佐	中川 直也
学校教育課長	藤田 剛
学校教育課指導管理主事	渡邊 正文
学校教育課指導主事	小林 信之
学校教育課長補佐	小林 秀幸
生涯学習課長	樋口 具範
「森の学校」キョロロ副館長	小海 修
「森の学校」キョロロ学芸員	小林 誠
発達支援センター長	越村 智子

### 事務局

総務部長	金澤 克夫
企画政策課長	田辺 貴雄
企画政策課長補佐	村山 等
企画政策課企画政策係長	酒井 潤
企画政策課企画政策係主査	石橋 大吾

4 議 題 (1) 特別支援教育の取組  
(2) 里山の小さな博物館の大きな挑戦「森の学校」キョロロの20年の成果  
(3) その他

【配布資料】

次第

出席者名簿

座席表

資料 1-1 特別支援教育の取組

資料 1-2 特別支援教育の取組（資料）

資料 2 里山の小さな博物館の大きな挑戦「森の学校」キョロロの 20 年の成果

金澤総務部長（開会）

これより令和 6 年度十日町市総合教育会議を開催いたします。要綱に基づきまして、本会議は公開で行われます。会議全体の時間は、概ね 1 時間を予定しております。

それでは、開会の挨拶を関口市長からお願いいたします。

関口市長（開会挨拶）

本日は大変ご多用の中、教育委員の皆様からご参集いただきまして誠にありがとうございます。

今年度は市内 4 校の小学校において、創立 150 周年を迎えます。他にも中里中学校は創立 40 周年、西小学校は創立 50 周年を迎えるなど大きな節目の年であります。引き続き、子ども達の健やかな成長を目指し、「十日町市を愛し、自立して社会で生きる子ども」の育成を進めていきます。また、明治 4 年創立の市内で一番古い歴史を持つ馬場小学校が、今年度末をもちまして閉校となります。統合先の水沢小学校においては、校舎の大規模改修がすでに終わり、相互交流が始まるなど、受け入れ態勢も着々と整えられています。来春、新しい校舎において、多くの子ども達の笑顔が見られることを今から楽しみにしています。

そして中学校に関しては、「市立中学校のあり方検討委員会」から今年 3 月に提言書を提出いただきました。児童生徒数の急速な減少が続く現状を踏まえて、30 年先を見据えた提言をしっかりと皆様と共有しながら、この時代の変化に対応できるように頑張っていきたいと思っています。

さて、本日の議題は 2 つあります。1 つ目は「特別支援教育の取組」についてです。特別な支援が必要な児童生徒は年々増加傾向にあります。市では児童生徒一人ひとりの特性に応じて特別支援学校や特別支援学級、さらに通級指導教室の充実を進めています。特に、近年ではインクルーシブ教育を推進する中で、通級指導教室を毎年増設するとともに、教職員の指導力の向上に取り組むなど、児童生徒それぞれの個別最適な学習環境の整備を進めています。本日は、当市における特別支援教育の取組の現況や課題につきまして、議論いただきたいと思っております。

2 つ目の議題は「森の学校」キョロロです。平成 15 年に大地の芸術祭の松之山地域の拠点として誕生して 20 年が経過しました。開館以来、博物館機能を活かした地域づくりを目指す自然科学館として、これまで様々な企画展や体験プログラムを通じて当地域の魅力を

発信し、市内外の多くの方から利用いただいています。

また近年では、里山の自然を文化観光資源とする文化観光の推進にも取り組むとともに、調査研究や教育普及活動を通じて地域づくりに大きく貢献しています。このような取り組みは、特徴的な博物館活動の例として全国的にも高い評価を得ています。本日は、これまでの活動の成果とキョロロの独自性、さらにその強みを活かした今後の持続的な発展に向けての展望についてお伝えする中で、教育委員の皆様からご意見を賜りたいと考えています。

ふるさとを愛する子ども達を増やしていくこと、また、多様な文化に触れ合えるまちづくりを進めていくことが、「選ばれて 住み継がれるまち とおかまち」の実現につながっていくものと考えています。教育委員の皆様には、今後も引き続き、教育行政の充実に更なるお力添えを賜るようお願い申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

よろしく願いいたします。

金澤総務部長

ありがとうございました。

本会議の運営に当たりましては、市長が「総合教育会議を招集する」とされておりますことから、以降の進行につきましては、関口市長からお願いしたいと思っております。

関口市長

それでは、しばらくの間、進行を務めさせていただきます。

次第に沿いまして進めますので、よろしくお願いいたします。

議題（１）です。「特別支援教育の取組」につきまして、まずは事務局から資料の説明をお願いします。

学校教育課 小林指導主事、発達支援センター 越村センター長

議題（１）「特別支援教育の取組」資料1-1、資料1-2に沿って説明を行う。（省略）

関口市長

ありがとうございました。それでは説明のあった内容について、委員の皆様のご意見を伺いたいと思います。いかがでしょうか。

渡邊委員

ご説明ありがとうございます。私自身、保護者の立場として思うことは、子どもが生まれて発達段階に入ったときに、ほかの子と何かちょっと違うかな。という所が出てくると親として認めたり、納得するまでにすごく時間がかかると思います。でも早い段階で支援が必要な子たちに気付いてあげて、ケアをすることが必要だと聞いたことがあります。大事なのはお母さん達が気付いたときに発達支援センターでのサポートやカウンセラーと上手く繋がれる仕組みができると良いと保護者として思いました。

また、今ご説明いただいた中で、子ども達がどこで学ぶかは、就学支援委員会で決定されるとありました。専門家が集って「この子は支援学校がいい」「この子は通級の方がいいんじゃないか」と判断していくものなのではないでしょうか。一番近くにおいて、その子の特性を一番理解している保護者の言葉や本人の学びを尊重し、疎外することのない学校であってほしいと思います。そういう場所で学べるように、保護者の意見を取り入れて学校の選択や学ぶ場の選択をしてほしいというのが私の意見です。

関口市長

ありがとうございました。事務局からどうぞ。

学校教育課 小林指導主事

ありがとうございます。就学に関して、十日町市の状況をご説明いたします。まず、就学支援委員会で発達検査や保育園に行動観察に行きます。その資料を集めて、専門科の医師や学校関係者などで話し合いを行い、就学支援委員会でその子に合った場を判断し、保護者に判断通知を出させていただきます。その後、学校・保育園・保護者と三者で集まって教育相談・就学相談を行い、意向届を教育委員会に出していただきます。さらに、教育委員会でまた話し合いをして、決定通知を出すという形になっておりますので、保護者のご意見も十分参考にさせていただいております。

関口市長

発達支援センターからもお願いします。

発達支援センター 越村センター長

早い段階でのケアについて、発達支援センターでは、乳幼児健診と保育施設に出向きながら、関係職種の方と相談を行っております。乳幼児健診では保健師や発達支援センターの職員で支援の必要性や保護者の相談に乗ったり、保育施設においても保育園と連携しながら保護者の相談を行い、発達支援センターにつなげるなど、丁寧な支援を行っております。また、就学相談においても発達支援センターで支援している内容を学校や施設に伝える取組も行っており、早い段階での支援を実施しています。

市長

ありがとうございました。発達支援センターがスタートするときに臨床心理士の採用をしました。保護者から専門職である臨床心理士から診断していただくことに説得力がある。と言われたことがあります。現在は、臨床心理士が何人かいますよね。

発達支援センター 越村センター長

発達支援センターで1名、教育委員会に兼務で1名おります。

関口市長

発達支援センターの開設当時に初めて採用しました。例えば、保育園で保育をしながら「お宅のお子さんはちょっと…」と言われると、なかなか納得できないという話があります。専門職が現場に出向いて、しっかりと見る。来てもらうのではなく、現場に行って判断するというやり方となっています。色々な専門家やカウンセラーへのつなぎという話がありましたが、発達支援センターではそういった機能がかなり充実していると思っています。

関口市長

他にいかがでしょうか。

廣田委員

今の関連ですが、支援を要するか、要しないかを判断するときに、相手は子どもです。成長している段階ですので、昨日と今日でまた様子が変わります。少し言語に遅れていても、ほかの子より1年遅れ、2年遅れで取り戻せるというか、追い付いていくこともあると思います。支援を要する方に分類されたら、ずっとそのまま支援が必要だという取り扱いを受けて大人になってしまうという事も無きにしもあらずです。例えば、途中で支援を要さない方に戻ることもあるのかどうか、一度決めたらそのままではなくて、また継続的に成長の様子を見ながら、何回も判断する機会があるのか、お聞きしたいです。

関口市長

事務局からお願いします。

学校教育課 小林指導主事

先ほどお話をさせていただいた、就学支援委員会でその判断をします。例えば、通常級であったお子さんが特別支援学級に入るといった場合も、必ず就学支援委員会を通します。また、特別支援学級だったお子さんが通常級に戻る場合もあります。よく子ども達を観察している学校が保護者と相談し、この子はこういった状態なので通常級に戻したいということ而就学支援委員会に書類で提出します。そして就学支援委員会で通常級に転籍するかどうか判断します。今年度もそのような話があります。

関口市長

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

浅田委員

特別支援教育を受けているお子さんが増えている。特に通級によるお子さんが増えているということですが、私は好ましいことだと受け止めています。十日町市の特別支援教育に

対する受け入れ態勢が整い、保護者の心理的ハードルが下がってきているからではないかと思えます。また、より良い教育を求めて選ばれている面があるのではないかなと思えます。特別支援教育を受けられるお子さん達の中には、発達障害と言われる症状の方がいると思いますが、発達障害は精神科の領域でもまだ新しい分野で、現在も研究が進められているそうです。インクルーシブ教育で誰もが当たり前のように学び、遊ぶようになれば互いを理解し、疎外感を感じることがなくなり、一緒に学べるようになるのではないかと思えます。その実現のために先ほど課題でもありましたが、毎年教室を設置したり、人手が足りないという説明がありましたので、ぜひそちらの方に予算を組んでいただきたいと思えます。

関口市長

ありがとうございます。教育長いかがですか。

渡辺教育長

浅田委員のおっしゃる通りその大きな流れというものは進んでいます。事務局の説明にもありましたが、そういう流れが生まれるきっかけとなったものが、ここ数年の間に何回かありました。資料1-1の8ページ、令和2年度から中学校でも通級指導が始まり令和4年度から更に増えていく流れとなっています。これは、国が「みんなと一緒に学習できる人は積極的に通常の教室に入れてください。」という指導があつてのことです。これを受けて、市としても積極的に取り組みを進めてきました。

続いて指導教室ですが、これは県の許可案件ですので県にも設置について理解を得た上で、人的な支援が大切だと思っています。教室だけをいきなりポンと増やしても今度は学校や先生が大変になりますので、人的な支援を伴う形での予算化や、そして市町村だけではなく、国や県も一緒になって考えていくような環境づくりが必要だと考えていますので、そのような働き掛けもしていきたいと思えます。

関口市長

時間が限られておりますが、他にいかがでしょうか。

川崎委員

通級の子が年々増えているということですが、今の子ども達は大変幸せだなと思えます。何故かと言いますと、支援のタイミングが遅れることによって苦しむ子がいるという現状があるからです。先ほども早期発見という話がありましたが、もし早期発見をされずにそのまま通常の学級でずっと生活すると自分のイメージしたような自分になかなかきれず、さまざまなトラブルが発生します。その結果、自己評価が低下したり、うつの状態が出てきたり、不安が増したり、場合によっては自傷行為を起こしてしまう子も出てくる場合があります。是非タイミングを早めていただき、適切な対応ができる体制をとっていただきたいと思えます。また、特別支援教育に関しては、新潟県も特別支援教育推進室という部署があり、

推進していく体制があると認識しています。是非十日町市においても特別支援教育を推進していただきたいと思います。

更に接続強化として、現在は発達支援センターと小学校・中学校との連携がスムーズに進み始めていますが、これも更に強化していただければと思います。小学校に入る段階で、通級や支援学級や特別支援学校などを紹介されても先ほど話があったように「自分のところはそこまでは…」と遠慮される保護者がいます。中には小学校に入ってからやはりなかなか厳しい状況にあって、1年経ってようやくその子の辛い状況が見えてきて保護者も新しい体制の方に転換されていくことがあります。是非、丁寧な接続により、子ども達が自分に適した環境の中で伸び伸びと成長できるようにしてほしいと考えています。

関口市長

ありがとうございました。時間の関係で、この議題につきましては閉めさせていただいて、また最後に総合的なご意見をいただきたいと思います。

それでは議題（2）に移ります。「里山の小さな博物館の大きな挑戦「森の学校」キョロロの20年の成果」であります。事務局から説明をお願いします。

「森の学校」キョロロ 小林学芸員

議題（2）「里山の小さな博物館の大きな挑戦「森の学校」キョロロの20年の成果」  
資料2に沿って説明を行う。（省略）

関口市長

ありがとうございました。それでは皆様からのご意見を頂戴したいと思います。

廣田委員

キョロロを授業で利用するという説明が資料2の9ページにありましたが、キョロロは市内の学校での教育の位置付けはどういうものなののでしょうか。例えば、4年生になったら1回は全ての学校が行くような計画になっているとか、学校の状況をお聞きしたいです。

関口市長

ありがとうございました。事務局からお願いします。

学校教育課 藤田課長

学校の総合学習で自然等をテーマにした場合は、キョロロに見学に行くことが多いです。何年生になったら必ずキョロロに行くことを特段指導しているわけではありませんが、市内の学校だけでなく、県内も含めて多くの子ども達がキョロロに行つて勉強している例は沢山あります。

関口市長

教育長からもお願いします。

渡辺教育長

十日町市には、キョロロの自然系の博物館と、十日町市博物館「TOPPAKU」の歴史系の博物館と両方があります。ほぼどこの学校もどちらかには授業で行っているのではないかと私は感覚的に捉えています。一昨日も博物館「TOPPAKU」に行きましたら、多くの子ども達がいくつかの班に分かれて、それぞれのコーナーで勉強している姿を見ました。キョロロでも同じような姿を見たことがありますので、そういう形で地域そして学校にも溶け込んできていると感じています。

関口市長

ありがとうございます。その他にいかがですか。

川崎委員

20年間の成果として大変すばらしい成果を上げているという印象を持っています。今後この20年の成果を基に更に発展をしていただければと思います。その発展の一つの視点として、教育現場との関連も考えていただきたいです。信濃川の河川敷には「ミヤマシジミ」という絶滅危惧種の蝶が生息していて西小学校の学区になります。例えば、キョロロを出張博物館のような形で各校に派遣し、その地域ならではの自然の素晴らしさを子ども達に体感してもらうような形の授業を構想できたら良いと思っています。「センス・オブ・ワンダー」という言葉がありますが、子ども時代の自然との関わりや、そこで得た体験は一生涯忘れないものとなり、そこで得た素晴らしい体験は必ず「あのふるさと」という言葉が示すように自分の心の中にどっしりと残ります。そしてこの十日町市に将来住み継がれると思います。それぞれの子ども達が今生活している自然の素晴らしさを博物館とこれまでのキョロロとの成果を基にして大きく各校に示唆いただけるような活動ができればと思っています。ご検討いただけたら幸いです。

関口市長

ありがとうございます。確かに博物館やキョロロには素晴らしい学芸員がいますから松之山以外のことでも当然いろんな知見を持っています。最初の議案とも関わりますが、特別支援学校と十日町小学校との連携があります。これも他の小学校にはどのように影響を与えているのか、ちょっと考えてみる必要があります。同じように素晴らしい拠点があつてそれが他の子ども達にどのように影響を与えるのか。これは大事なテーマになるのではないかと思います。

他にいかがでしょうか。

渡邊委員

市長のおっしゃる通りだと思います。キョロロは松之山にあるので、まつのやま学園の利用は多くても、私の子は松代小学校なので、キョロロに何回行ったかと聞くと、2回行ったことがあると言います。学校としても行きたいけど、キョロロは遠いから子ども達を頻繁に連れて行けないのではないかと考えています。川崎先生がおっしゃった出張のような機会があったら、もっと子ども達も楽しんで自然に触れられるのではないかと考えています。

また、資料2の中に学芸スタッフ無くしてキョロロ無し！と記載がありましたが、本当にその通りだと行くたびに思います。自宅にいた不思議な生き物を写真に撮ってキョロロの学芸スタッフに見てもらおうと「これは〇〇ですよ、これは〇〇のような所に居るんです。」とすぐ答えてくれました。キョロロの学芸員の皆さんの力量と面白い企画を発想してくれる素晴らしいアイデアがあるから、このキョロロが魅力的な場所になっていると思います。

関口市長

ありがとうございます。教育長からどうぞ。

渡辺教育長

ありがとうございます。キョロロが外に出掛けるというのは非常に大事だと思いますし、事例などを後程ご紹介したいと思います。また、学芸員スタッフの持っている知識・技能・経験値・可能性に対する思いというのが、大きな財産だと思っています。キョロロだけとか、松之山だけという話ではなく、里山の全てが関わるキョロロだと思います。

市のさまざまな計画の策定等でもキョロロから参画してもらい、事業を進めています。例えば、笹山の縄文広場です。これは国宝が出土したことでご存じかと思いますが、ここをもう一度再生し、新しい形で皆様に体験してもらうような空間にしようと考えています。そこで縄文だけでなく、自然が関わって初めて縄文文化となる。文化財とキョロロと一緒に計画づくりをしておりますし、これからも進めていきたいと考えています。学芸員スタッフと体験学習の場はキョロロの一番重要なポイントだと考えておりますので、今後もしっかりと実施していきたいと考えています。

関口市長

他にいかがでしょうか。

浅田委員

ありがとうございます。説明資料もとても分かり易くて、20年間キョロロの学芸員さんとスタッフの皆さんの創意工夫がすごく伝わってきて、従来の博物館の常識を覆すような新しい形を見せてくれている素晴らしい自慢の博物館だと感じます。私は先週お邪魔して美人林ものごとという企画展を見ましたが、美人林には毎年10万人が訪れているのに、キョロロの入館者数は資料2の6ページの推移を見ても、美人林より少なく「なんで博物館

には来てくれないだろう」と悔しく思います。キョロロとしては、どのようにしたら入館者がもっと増えてくれると考えていますか。

「森の学校」キョロロ 小海副館長

美人林は地域を代表する美しい景観の林で、鑑賞も無料なことからも特にご高齢の方々のツアーバスが多く入っています。残念ながらキョロロではそういった方々への訴求力が足りないのかなと感じておりますが、キョロロは地域のストーリーを伝える機能を持っていますので、美人林の成り立ちを説明するような展示をすることによって、より一層美人林の理解を深めていただき、またキョロロに訪れる方が増えていくような取組みをしていきたいと考えております。

関口市長

教育長、どうぞ。

渡辺教育長

先程の出張学習の実例をご紹介します。

「森の学校」キョロロ 小林学芸員

キョロロの出張学習に関して、ご紹介いたします。キョロロに来館し、体験していただくお子さんも多いですが、市内の小中学校から要望があれば、私たち学芸員が出向きまして、座学または学校周辺の林などで体験学習を提供することがよくあります。本日の午前中も松代の城山で松代小学校の4年生と一緒に歩いてきました。このような学校に出張して子ども達と一緒に地域の学びを深めるという出張学習を実施しております。

関口市長

ありがとうございました。色々なお話をいただきました。

議題(3)の「その他」であります。これまでの議題のことはもちろん、それ以外のことについても結構です。何かご意見があればどうぞお話しください。

特にありませんか。では、先ほどキョロロの歳入と歳出の話がありましたが、キョロロでは入館料やその他の売上代金による歳入と、光熱費や様々な仕入れ等による歳出のバランスが取れていることは非常に有難いことだと思っています。博物館「TOPPAKU」でも同じような努力をしまして、もうすぐ博物館「TOPPAKU」でも達成できるのではないかと考えています。こうした「館の経営」にも意識を持って、学芸員を含めスタッフの皆さんが運営していることが大きな変化だと感じています。

また、博物館「TOPPAKU」をテーマとしたNHKの番組が12月14日からいよいよ始まります。実際に博物館「TOPPAKU」の職員が出演し、十日町市博物館という名前番組に出ると伺っていますので、かなり注目を浴びるドラマだと思っています。多くの人から注目を浴びるよ

うな存在になってきているという点では、市長として嬉しく思っています。

これを皆さんに配ってください。この番組をNHKのBSで放送し、そのあと「夜ドラ」という連続ドラマに4回に分けて出るそうです。是非皆様からもご覧いただければと思います。

時間も近づいてきましたが、他に皆さんからいかがでしょうか。

#### 廣田委員

特別支援教育について、18歳になると発達支援センターを離れて社会人として自立することになります。障がい福祉サービスの施設を利用していくことにはなりますが、障がい福祉サービスの施設職員は、特別な資格が無く、研修制度もありません。施設長やサービス管理責任者のような管理職にはもちろん資格や研修はあります。私は退職後、10年間くらい障がい者施設に職業指導員・生活指導員として働いていますが、何の資格もありません。資格そのものが無いので取りようがなく、ただ役職だけをもって勤務しています。職員のスキルは「OJT」で身に付けるしかないというのが現状です。そのため、施設によっては接し方を間違えたり、非常に高圧的になったり、以前ニュースにあったように施設職員が利用者を殺害したりだとか、そういった事件もありました。

また、高齢者福祉と障がい者福祉の両方を運営している法人もあります。人事異動があると、高齢者福祉に異動しても障がい者福祉には行きたがらないということがあられるようです。私が伝えたいのは、障がいのある方が18歳になって自立するとエアーポケットのように忘れ去られている面があるということをお私が10年間現場で勤務してきた者として、この場で話しておきたいと思いました。

#### 関口市長

本当にありがとうございました。資料1-1の16ページに18歳からの障がい福祉サービスについて説明があります。発達支援センターでは0歳から6歳までの乳幼児期、その後、子ども達が就学する学齢期、小学校・中学校・高校までの青年期をカバーしています。そこから先が福祉の分野になりますが、18歳以降もしっかりとこれまでの流れをつなげていくことが重要です。廣田委員が託されている施設や各事業所の皆さんとサービスの内容を高めていくことが必要です。三条市では非常に熱心に取り組んでいます。18歳以降、どのように障がい福祉サービスにつなげていくか、福祉の分野で考えていきたいと思っています。

沢山の意見をいただきましてありがとうございました。進行を事務局にお返しします。

#### 金澤部長

活発なご議論、ありがとうございました。

最後に閉会の挨拶を渡辺教育長からお願いします。

渡辺教育長

大変お疲れ様でございました。市長並びに教育委員の皆様、ありがとうございました。

本日は、特別支援教育と「森の学校」キョロロという2つの議題でした。テーマとしての入り口は狭いものでしたが、お話いただく内容は非常に奥行きが広く深いものでした。

特別支援教育では、就学前の子ども達から子育て、家庭環境に高等教育、さらには社会に出てからの福祉など、本当に人の人生に関わることだということを改めて感じました。

また、「森の学校」キョロロでは、自然だけでなく日本あるいは世界も含めて、環境がどうなっていくのか歴史的にどういう流れがあって、今どういう環境にあるのかなど、非常に深い世界が広がっているなと感じた次第です。本日の議論をそれぞれの分野で一生懸命やりたいと思いますし、やはり総合的に話をするのが大事だと感じましたのでこれからもよろしく願いいたします。本日は大変ありがとうございました。

金澤部長

以上で本日の会議を終了します。